

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
 未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	特別支援教室 自立活動 題材名「道具を使ってコースを作ろう」
学年	小学校 5年生1名 6年生3名
目標	<p>《本時の目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の意図を理解することができる。【人間関係の形成】 ・他者のよさを見つけ伝えることができる。【コミュニケーション】 ・自己の行動を修正することができる。【人間関係の形成】 <p>《プログラミング教育に関わる視点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が体を意識できるコースを作るために道具の選択や配置、順番などに着目しながら自分のコースをよりよく修正しようとしている。
教材タイプ	アンプラグド教材
使用教材	
環境	
都道府県	東京都
実施校	中央区立阪本小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>特別支援教室 小集団活動での実践事例</p> <p>○体を意識した運動を行うコースを作るために、自分のアイデアを生かしながら必要な道具を選んだり、ルールを考えたりする。さらに友達と協働してコースを作る活動の中で自然に生まれるコミュニケーションは、「他者への適切な働きかけ」の大切さに気付く機会となる。状況に合わせ、児童それぞれの課題に応じて教師が適切な働きかけを行う。</p> <p>○自己や他者に意識を向ける自分が作ったコースを自分で試して修正したり、友達が自分のコースで運動するのを見て他者の視点に立ってコースをよりよく修正したりする。</p> <p>【プログラミング的思考を育成する学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって自分のコースを作るためにフローチャートを提示する。(図1) ・自分が意図するコースを作るために必要な具体物を選んだり並び替えたりすることで思考を可視化する。(図2) <p>図1</p> <p>図2</p>
成果と課題	<p>フローチャートを提示することで、見通しをもって活動に取り組むことができた。フローチャートは他の学習でも有効活用できる可能性が大いにあるので、今後も実践を重ねていく。具体物を活用したり体験したりすることで、楽しみながらプログラミング的思考を養うことができた。プログラミング教育としての目標を達成できたのかを追究していくことが課題である。また、今後は本教材で学んだことを基にコンピュータを用いたプログラミング教育にも取り組んでいく。</p>